

腹膜炎

胃・腸・肝・膵・卵巢・子宮等を覆う膜を腹膜と言う。

これに炎症が生じ急性の経過を辿る危険。腸管の癒着・腸閉塞の危険。腹膜が直接細菌感染から炎症を起こす事もある。

症状 激しい腹痛・冷や汗・吐気・嘔吐・チアノーゼ・血圧低下・呼吸困難・

意識障害 これと間違ふもの(機械的腸閉塞・胆石・胆嚢炎・膵炎・

狭心症・)

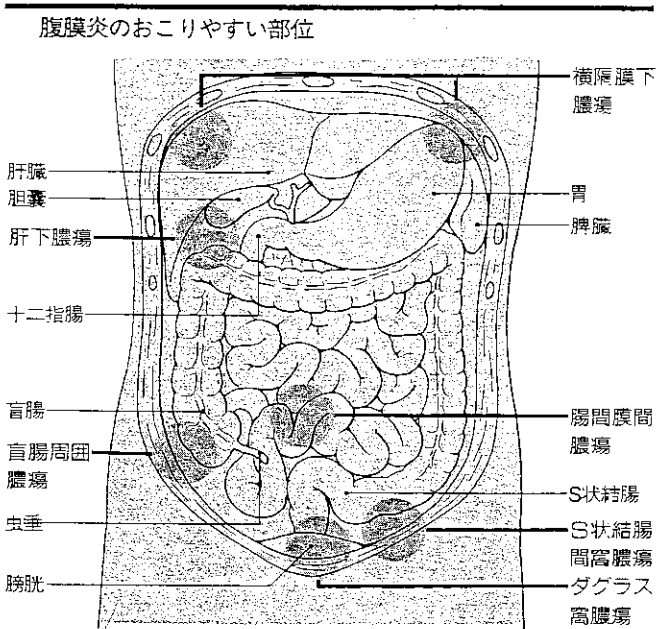
又、胆汁性腹膜炎 胆汁が腹膜に漏れる

骨盤腹膜炎 子宮卵管卵巢に細菌感染が及んだもの。

ダグラスか膿瘍 直腸と子宮の間に膿が溜まる。

一般的には

腹膜・その粘膜にEGを入れ、ヘリコバクター・ピロリ菌・コクサッキーウイルス
カンジダ・ブドウ球菌・フリーラジカル等を抜く



肥満は遺伝？

肥満遺伝子の発見

肥満遺伝子↓脂肪細胞からレプチン分泌　レプチンは脳の視床下部に働いて食欲減退・E G摂取抑制・体の活動高め・E Gの消費促す。

視床下部のレプチン受容体が活性化していないとダメ

更に　ベータ3アドレナリン受容体が大きい↓食べた脂肪を蓄積せず熱にして対外(ラジエーター)

脳内ドーパミン受容体が活性化していないと↓満足感発現しない。

その他に、摂食中枢制御のグレリンの役割。

対応

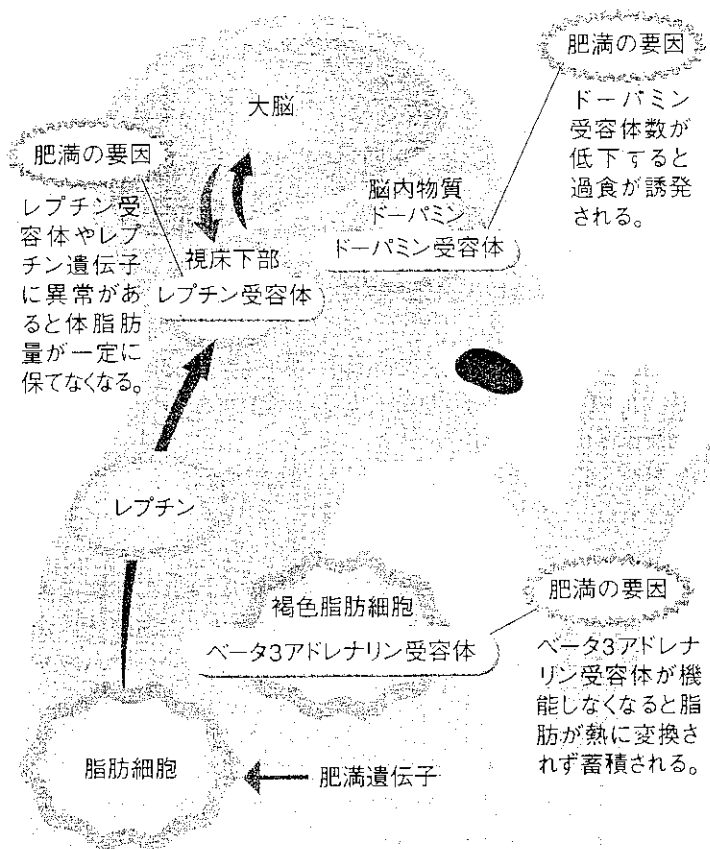
肥満遺伝子・細胞から分泌されたレプチン・視床下部のレプチン受容体

ベータ3アドレナリン受容体・ドーパミン受容体・腹内側核にE Gを入れ、

外側野・視床下部のグレリン産生ニューロン・外側野のグレリン受容体及び

そのグレリン等のE Gを抜く。　　以上で完璧

■肥満になるさまざまな要因



肥満遺伝子は脂肪細胞からレプチンをつくって分泌する。脂肪細胞が増加するとレプチンは、視床下部に働いて食欲をコントロールし、エネルギー摂取を抑えるしくみになっている。

お礼の報告

古村先生いつも楽しいセミナー有難うございます

今月大阪セミナーで私の祖母の病気の回復のお礼を言いましたが、もう一度詳しく報告します。今年の2月に食道裂孔ヘルニアになりそれに第十二胸椎に異常があり痛み出して、入院しそれに脱腸の手術をして大変でしたが、すごいスピードで回復しました。脱腸の手術をしたのですが

手術の間 手術の後も 今も痛みが全くないとの事で、どうなっているのか不思議でしょうがないです。(因・果の対応それに光ハウツウなど一生懸命やっていました)

86才なのになぜこんなに早く回復するのか医者・看護婦・見舞いに来た人が不思議に思っていました。

時空研のすごさをみんなに見せ付けたようでした。

退院を無理やりさせて、後は祖母にカルテを渡してやらせています。退院後 祖母に三十分毎日カルテをブーブーやっていたらいいと説明したのですが、なぜか 86才の祖母は、一日2時間×3時間しているため さらに元気になっています。

胃がすごく調子が良く 何を食べてもうまいと言って喜んでいます。

有難うございました。

会員 豊田弘樹